



令和6年度羽田中学校だより

天空の橋

令和6年5月1日

目指す生徒像・・・

Heart
Never Give Up
Do Our Best

大田区立羽田中学校

「おおた国際教育」推進校に向けて

今年度、羽田中学校は「〈おおた国際教育〉推進校」となりました。

国際教育とは「地球人として、いろいろな課題を考えられるようにする教育」です。個人や、自分の国だけの損得を考えるのではなく、地球規模での大きな課題を「自分ごと」として考えられるようにすることが国際教育です。

地球人として生きていくためには、世界中の人々と協力して活動できる次のような人物の育成が必要です。

- 世界中の人と協力できる
 - ・いろいろな（国の）人や文化を理解できる
 - ・自分の（国の）ことを話し、理解してもらえる
 - ・自分の意見を言える
- 国際交流言語（英語）の習得
 - ・いろいろな国の人と意見をかわせる
 - ・いろいろな国の文化を学べる
- 活動が世界につながることを意識できる
 - いろいろな活動で、社会に貢献できる
 - ・直接、貢献（ボランティア）活動を通して
 - ・仕事、スポーツ、趣味を通して

羽田中を卒業した生徒の活躍の場所が海外でなくてもかまいません。また、世界的に有名な人物になることが必要なわけでもありません。ただ、自分の生活する場所や役割において、国際的な課題を意識しながら、いろいろな人と協力して活動できるようになってほしいと思っています。寿司屋さんになったり、アニメ関係の仕事についたら「日本文化を海外の人にわかってもらうこと」「それが世界とどのようにつながっているか」を意識して、多くの人と協力して仕事ができればよいわけです。

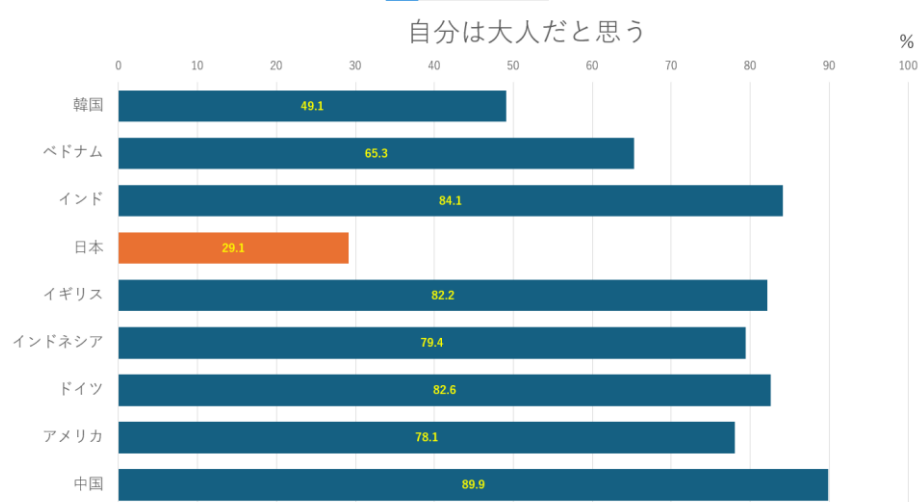
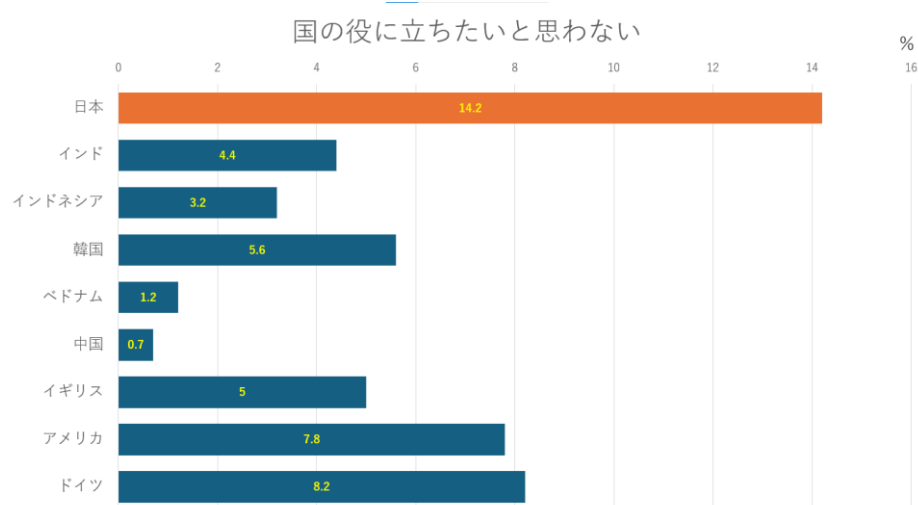
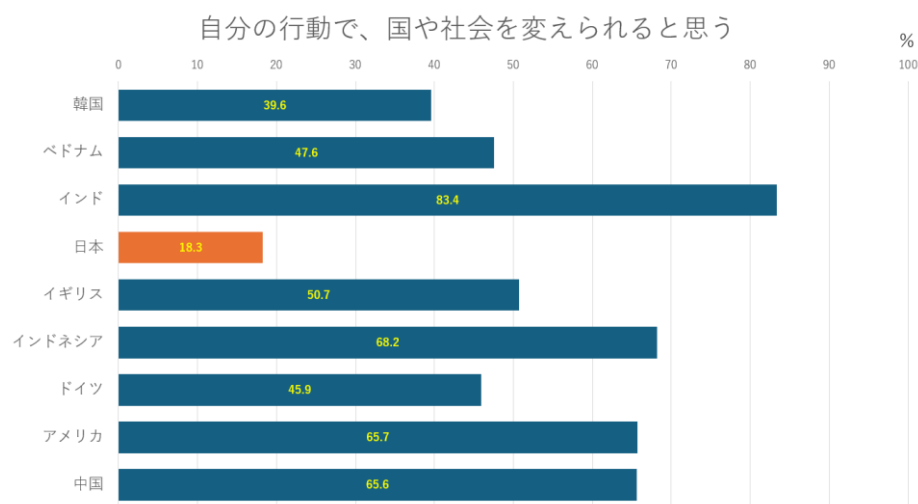
さて、上に書いたような地球人には、その前提となる姿（人物像）があります。次のような意識や志向をもった人です。

- ◇ 社会を変えられるいう意識
- ◇ 社会に貢献したいという志向
- ◇ 人の喜びを自分の喜びとする態度

このような意識や志向がなければ、地球規模の課題を解決しようとか、みんな協力しようとはならないからです。ところが、日本の若者は非常にその意識が低いことがわかっています。次のグラフを見てください。

	自分は大大人だ 思う	自分は責任ある社会の 一員だと思う	将来の夢を持っている	自分の行動で、 国や社会を 変えられと思う	自分の国に解決したい 社会問題がある	社会問題について、家族や友 人など周りの人と積極的に議 論している
(単位 %)						
① 韓国	49.1 5位	74.6 5位	82.2 5位	39.6 5位	71.6	55.0 5位
② ベトナム	65.3	84.8	92.4	47.6	75.5	75.3
③ インド	84.1 2位	92.0 2位	95.8	83.4 1位	89.1 1位	83.8 2位
④ 日本	29.1 9位	44.8 9位	60.1 9位	18.3 9位	46.4 9位	27.2 9位
⑤ イギリス	82.2	89.8	91.1	50.7	78.0	74.5
⑥ インドネシア	79.4	88.0	97.0 1位	68.2 2位	74.6	79.1
⑦ ドイツ	82.6	83.4	92.4	45.9	66.2 5位	73.1
⑧ アメリカ	78.1	88.6	93.7	65.7	79.4 2位	68.4
⑨ 中国	89.9 1位	96.5 1位	96.0 2位	65.6	73.4	87.7 1位

このグラフは、日本財団が2019年に行った9カ国の18歳、それぞれ1000人に聞いた調査の結果です。それぞれの項目に「はい」と答えた人の割合を示しています。



日本は、すべての項目について9位（最下位）です。特に「自分の行動で国や社会を変えられると思う」という質問には、非常に低い回答結果です。

また、「国の役に立ちたいと思わない」という若者の割合が他国に比べ非常に高いのです。

日本の若者の「みんなのため、社会のために活動する」という意識は、世界標準ではないということになります。

「自分たちの社会を自分たちでつくる」意識や、「人のために活動する」意識が低ければ、地球規模の問題にも前向きにならないのは当然です。社会が自分たちで変えられると思っていないのですから……。

今までの教育では、地球人として活動する人物は育たないということになります。

もちろんこれは、若者だけの責任ではありません。私たち大人（特に教育に関わる者）の責任は、強く感じなければいけないはずです。

学校で言えば、自分たちの生活する学校社会を「自分たちでつくる」場を設定することがもっと必要なのだと思います。日本は中学生をあまり大人扱いしていない。だから、「自分たちが大人だ」という意識もなかなか育たないわけです。

今年度、学校では、できるだけ自分たちで社会をつくる場をつくりたいと思っています。

また、社会のために活動することのよさや、充実

感を味わわせることも重要です。

こういった活動も含めて国際教育です。そして、それが必要なのだと思います。

まずは、ボランティアに参加しましょう。今年度、コロナ禍があげ、多くのボランティアが行われるはずです。ぜひ、多くの生徒が参加してくれることを期待しています。

4/28日のガーデンパーティには、15名の生徒がボランティアに応募してくれました。在校生の7.5%の非常に高い参加率です。非常にうれしく思っています。